

第 38 回青森県生協大会報告



1. 日 時 2023 年 11 月 13 日(月) 10:30~12:45

2. 目的

- ・県内の生協組合員が様々な形で集いあい、交流を深める。
- ・暮らしに関わる諸課題について学習（理解）を深め、今後の活動につなげる。
- ・県内の協同組合・諸団体・行政とのつながりを深め、外に向けての発信を強めていく

3. 大会テーマ

**声かけ、つながろう！暮らしの安心をみんなの力で！
～平和・いのち・健康・暮らしを守る笑顔の輪～**

4. 開催会場・参加状況 173 人

青森市メイン会場 リンクステーションホール大会議室：71 人

八戸市 八戸医療生協本部：6 人/コープあおもりりいけ店 2 階：14 人

弘前市 津軽保健生協組合員センター：7 人/コープあおもり和徳店：18 人

コープあおもり五所川原事務所：16 人/ コープあおもりむつセンター：23 人

コープあおもり十和田センター：9 人 ZOOM 視聴 9 人

5. 当日のプログラム 司会：野呂幸市（津軽保健生協）

10:30	開会宣言 生協大会企画運営委員長 今立 郁子 開会挨拶 県生協連会長 菅原 正
10:35	講演「声かけ、つながろう！暮らしのあんしんをみんなの力で」 ～孤独・孤立「問題」を切り口として～ 青森県立保健大学健康科学部社会福祉学科 教授 児玉 寛子氏
11:35	「楽しく健康づくり、みんなで体を動かしましょう！」 青森保健生協組織部 鳴海騎士さん 福士学さん（運動指導士）
11:45	県内生協の取り組み報告・紹介 ①青森県内の平和活動 生協大会企画・運営委員会（青森保健生協）野呂ヨネさん ②サニタリードライブの取り組み コープあおもり 後藤由紀子さん ③災害支援の取り組みと生協間連携の報告 青森保健生協組織部 鳴海騎士さん ④東中おしゃべりハウスの紹介 津軽保健生協組織部 鈴木諭さん ⑤健康チャレンジとすこしおチャレンジの取り組み 八戸医療生協澤口孝之さん ⑥新型コロナウイルス支援物資の取り組み 青森県民生協 藤崎正喜さん ⑦信用生協における貧困・生活困窮問題への取り組みについて 青森信用生協 吉田慎二さん
12:20	大会アピール 生協大会企画運営委員（青森県民生協）田中義正
12:25	閉会の挨拶 生協大会企画運営委員長（青森県民生協）今立郁子
12:30	閉会 司会 野呂幸市

5. 大会の概要

11月13日(月)、第38回青森県生協大会をハイブリッドで開催しました。青森市文化会館をメイン会場に、県内7カ所のサテライト会場、2カ所の視聴会場に、会員生協より173名の参加がありました。今立郁子企画運営委員長の開会宣言に続き、菅原正県連会長が開会の挨拶を行いました。

前半は「声かけ、つながろう！くらしのあんしんをみんなの力で～孤独・孤立「問題」を切り口として～」と題して、青森立保健大学の児玉寛子教授にご講演いただきました。1990年代まで、孤独・孤立は高齢者や被災者など「一部の人の問題」とみなされていたが、2000年以降は孤立者や孤独を感じる人の割合が増え、社会的孤立が深刻な問題となっている状況が報告されました。そのような中、国は「孤独・孤立対策推進法」を定め、孤独・孤立の解消に向けたモデル事業が始まっていることが紹介されました。最後にどう向き合うかについて①気づく、そしてつなげる②居場所(たまり場)づくり③アウトリーチ(生協をはじめとする民間の支援団体との連携が必須)が大事、点と点を結び、弱い紐帯の強さを活かしましょうと呼びかけられました。

後半に入り「楽しく健康づくり」と題して、青森保健生協組織部の鳴海騎士さんと福士学さん(運動指導士)に、ストレッチ体操を指導いただき、体を十分に伸ばして、リフレッシュしました。

続いて、県内生協の取り組み報告・紹介を行いました。

最初に、企画運営委員会の野呂ヨネさんから「県内生協の平和活動」の報告があり、ウクライナ軍事侵攻など世界の平和の危機に対して、緊急募金、街頭宣伝、学習会、原爆パネル展など幅広い取り組みがされたことが紹介されました。

コープあおもり後藤由紀子さんから、「生理の貧困」に対してできる事という話し合いから生まれた「サニタリードライブ」が組合員や職員の協力で広がり、大人の紙おむつも集める活動に変化している事が報告されました。

青森保健生協鳴海騎士さんから、22年8月の大雨被害に対して三厩支部と連絡をとって組合員訪問を行ったり、緊急募金を外ヶ浜町に寄贈した取り組みと、県民生協と連携して、5月には一斉まちかど健康チェックを市内全店舗で実施し、その後も年間を通じて実施していることが紹介されました。

津軽保健生協の鈴木諭さんから、高齢者向けのたまり場づくりの事例として東中支部の「おしゃべりハウス」の紹介があり、体操やものづくり、会食など年間を通じた活動を通して社会的なつながりをつくることをめざしているとの報告がありました。



今立郁子委員長



菅原正県連会長



司会野呂幸市氏



児玉寛子教授

八戸医療生協の澤口孝之さんから、「小学校と連携した健康チャレンジ」の取り組みで中居林小学校の3年連続学校ぐるみ参加の事例と、今年初めて取り組んだ「すこしお料理教室」「すこしおチャレンジ」での手ごたえと来年度に向けての意気込みが語られました。

青森県民生協藤崎正喜さんから、2年7カ月に及ぶ「新型コロナウイルス支援物資対応」で、3食5日分の食材セット（コープ商品を中心に32種類48個）87,555セットを出荷した取り組みにおける大変な苦労や冬の寒さ対策、取材対応などのエピソードが報告されました。

青森信用生協の吉田慎二さんから、「貧困・生活困窮問題」への相談・貸付、家計改善支援事業について、身近に起きている事例を交えて報告されました。

続いて、大会アピール「～社会保障費を削って戦争の準備をするのではなく、平和の準備を～平和・いのち・健康・くらしを壊す大軍拡、大増税に反対します！」の提案が、企画運営委員の田中義正さんからあり、拍手で採択されました。

最後に、今立郁子委員長より、企画運営委員の紹介と閉会の挨拶があり、司会の野呂幸市さんによる閉会宣言で全体を終了しました。

今回の生協大会では、メイン会場・サテライト会場8会場にて、野菜摂取推定量が測定できるベジチェックの測定を行い、各会場で多数の参加がありました。



ストレッチ体操を行う参加者



ベジチェックに並ぶ参加者



取り組みを報告する後藤由紀子さん



取り組みを報告する吉田慎二さん



大会アピールを提案する田中義正さん



サテライト会場の様子（むつセンター）

参加者の感想

児玉先生のご講演

年齢と共に少なくなる交友関係です。どうしても孤独、孤立しがちなのでサークル等に出席してゆきたいと思います

お話を聞きながら孤独、孤立の状態にある方へ隣人としてどんなことができるのか、私のように健康で時間のゆとりもある者が声かけつながらるためにどういう支援ができるのか考えていました

日頃の活動の中で常々感じていることなので、よく理解できます。現在、私達のグループもたまり場をさがしていますが、行政からあき家を借りる祭の支援金等があればなあ、と思っています。

孤独、孤立の違いが良くわかりました。ゆるいつながらは気持ちも楽に感じますし自分にもできると感じました

これからの社会の問題を具体的な資料を基にとてもわかり易く学ぶことができ有意義でした。

まとめの日頃行っていることの延長線上に交流がついてくるならばみんな、いろいろな人たちが様々なことでアプローチできるのではと思いました。今日出会う人、時間を過ごす人には優しく明るい対応することは信頼関係を築くことにつながり生協のできることはもっとあると感じました。生協の強みですね

老老介護→認認介護に移行してきている中、孤立、孤独は楽観できない状態だと思いました。

楽しく健康づくり

10分位で手軽にできるので、今度班会等で参考にしたいと思った。

やさしい運動で体中リラックスでき、できる事は家でもしたいと思いました。肩甲骨がとても気持ち良かった。

場面の切り替えと気分転換になりました。市民センター等でも取り入れて欲しい講座だと思う。

毎日一人でストレッチをしているが、仲間と一緒にの楽しさがわかる。

短時間で体のスミズミが動き、スッキリしました。

簡単なものでしたが、身体がポカポカしました。進行役の方のおだやかなさやしい声でのすすめ方がまた良かったです。

活動報告、全体運営

久しぶりで「ワクワク」で参加しました。大変素晴らしいものでした。活動報告もわかりやすく、大変ご苦労様です。

平和や貧困、健康への取り組みは大切です。今後も情報の提供をお願いします。1人では戦争に無力ですが、世界が皆団結して解決したい。

知らない活動がたくさんありました。お金の事が聞けるところがあるのはとてもためになりました。

県内の生協の取り組みをご紹介いただき、様々な活動に関わっている事に改めて『生協ってすごい!』と思いました。

各生協さんの様々な活動を知ることができ、生協のつながりや見守られているという安心感を改めて感じるとともに力強さを感じました。

「おしゃべりハウス」が青森にあれば絶対参加したい。